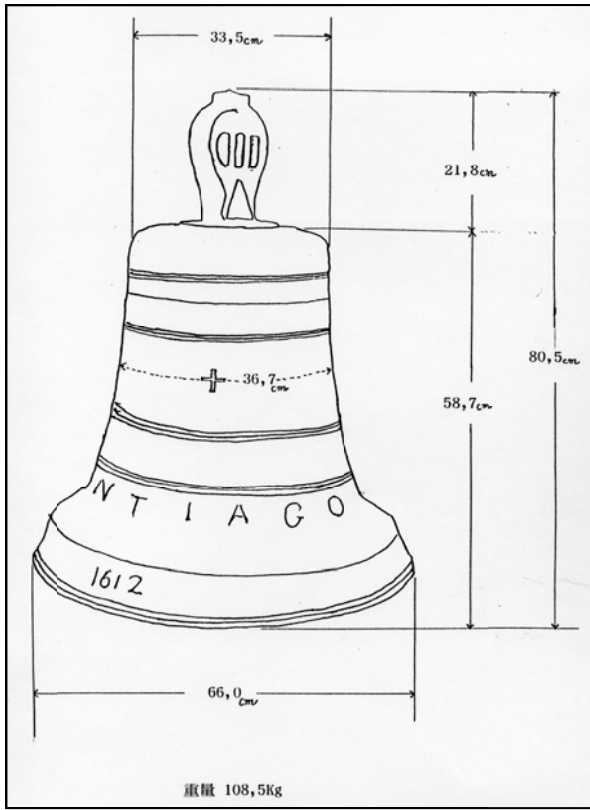


国指定重要文化財 「銅 鐘」(サンチャゴの鐘)

指定年月日	昭和25年8月29日
所在地	竹田市大字竹田2083番地(竹田市立歴史資料館)
所有者	中川神社(竹田市大字拝田原159番地)
種類	美術工芸
品質・形状	銅製、ベル形の形状(ただし、舌無し)
寸法・重量	高さ80.5cm 口径66.0cm 重量108.5kg
制作年代	1612年の銘文有り
銘文等	「HOSPITAL SANTIAGO 1612」の陽刻銘文 十字章の陽刻文

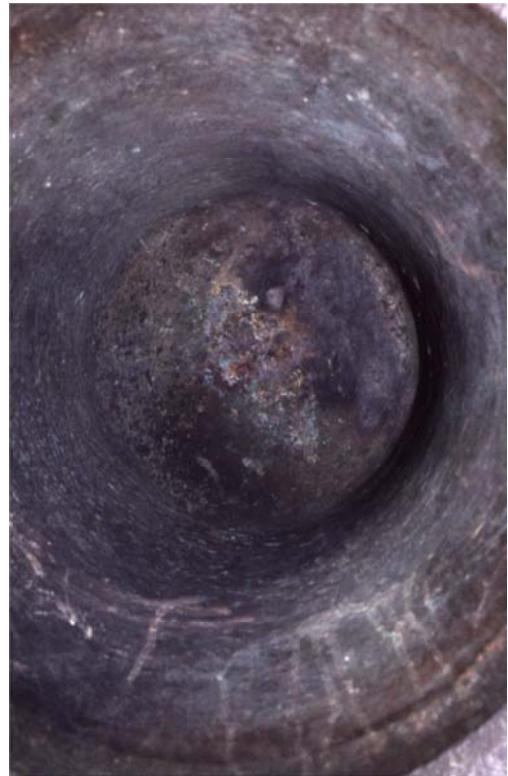
岡(竹田)藩主中川清秀、秀政、秀成を祭神とする中川神社は明治5年に岡城内から現在地に移された。したがってこの鐘も以前は城内にあったわけである。高さ83糎、口径66糎、内口径56糎、重量318.75匁。表面に十字章とHOSPITAL SANTIAGO 1612という銘が鋳出されている。サンチャゴ病院はレオン・パジェスの「日本切支丹宗門史」1614年(慶長19年)の条には「聖ヤコボの病院」の名で出ており(聖ヤコボはサンチャゴのラテン語よみ)長崎のミゼリコルディア(慈善院)の附属病院であつたらしく「誰からも見捨てられていた癩病人」や普通の病人を収容していた(同書1611年の条)。そして両院とも1620年(元和6年)長崎奉行長谷川権六の命によって破壊されてしまったが(同書)その後この長崎の鐘がどうして岡藩主中川氏の手に帰したかは明らかでない。こころみに一つの考えをのべると、寛永6年(1629)から長崎奉行としてキリシタン弾圧の采配を振ったのは、府内藩主竹中采女正重義であるが、彼が奉行当時のかん曲を責められて寛永11年に切腹を命ぜられ、その所領2万石を収公せられたあと府内の城番を命ぜられたのが岡藩主中川内膳正久盛である(徳川実記)。したがって、この銅鐘はあるいは竹中氏によって府内に運ばれ、さらに中川氏によって岡に送られたのかもしれない。また、これと同型の銅鐘が京都妙心寺春光院に1つある。これは京都の南蛮寺の遺鐘と言われ、表面にIHSという耶蘇会の紋章と十字章があり1577(天正5年)の銘が鋳出されている。1612年に作られた竹田の銅鐘は、これより年代が新しくまた型もやや小さいけれども、キリシタン遺物としてまことに貴重である。



「銅鐘」実測図



「銅鐘」写真



内面状況